



いわみ

# 議会だより

No.122

平成27年1月30日発行



## 12月定例会

2 ふるさと納税大幅増

4 一般質問 6議員が町政を質す<sup>ただ</sup>

10 総務教育産業福祉 常任委員会行政調査報告

14 成人式の実行委員のみなさんに聞きました

笑顔でひさしぶり  
(成人式 1月11日)

# ふるさと納税 大幅増加 まちづくり基金 2600万円に



アニメ「free!」のリピーターからもふるさと納税（イカ祭 於田後港）

12月定例会を、12月16日から18日まで3日間の会期で開きました。

一般会計補正予算など12議案（追加1議案）を、町長提案どおり可決しました。

## 主な議案の概要・質疑

### 一般会計補正予算

6190万円を増額し、予算総額を66億1335万円としました。

### 歳出の主なもの

岩美まちづくり基金費

1100万円増額

ふるさと納税額が大幅に増加の見込みとなるため。

### 財政管理費

706万円増額

ふるさと納税の件数が予想を超えたため、贈呈品代金などを増額する。

情報通信施設管理運営事業費 892万円

国道9号拡幅整備に伴う光ケーブル移設工事及び、ケーブルプラス電話（IP電話）開始に当たり、必要となる機器の経費。

有害鳥獣駆除事業費

408万円増額

有害鳥獣捕獲実績の増見込みと、鳥取市に建設予定の東部地域射撃場整備に係る負担金。

農業用機械等整備支援事業費 264万円増額

白地機械組合が購入するトラクター、しろかきハローなどの助成金。

観光文化交流推進事業費 260万円減額

よしもとライブ公演の中止による減額。

### 【質疑】

問 町制60周年事業のよしもとライブ公演は、大切な事業だったと思うが、なぜ中止になったのか。

答 出演予定者の山口智

充氏はテレビでおなじみのタレントで、60周年の事業として、昨年度整備したいわみふるさと音楽堂で、ぜひとも実施したいとの思いで取り組んできた。日程調整を進めてきた。

が、音楽堂での開催は野外ということもあり、10月までの調整はできないとの連絡があった。屋外は、この山口氏だけということで調整してきたが、11月以降も日程が一杯で、断念した。

### 特別職報酬等審議会 条例の設定

町長、副町長、教育長、病院事業管理者の給料、期末手当及び議員の報酬、期末手当の額を審議する審議会を設置する。

### 【質疑】

問 なぜ今の時期に設置するのか。

答 平成の町村合併までは、旧岩美郡と気高郡の6町村で審議会を設置し見直しを行ってきたが、解散している。

その後、八頭郡の3町はそれぞれ審議会を設置し、見直しについての検討がされている。

本町は今まで見直しがない。よって、公募委員を含む審議会を

# 新年のあいさつ

議長 船木 祥一



町民の皆さま、明けましておめでとうございます。

輝かしい新春の幕開けを迎えるにあたり、議会を代表してごあいさつを申し上げます。

議会は昨年7月に、議会議員一般選挙が行われ、新人4人を加えた12人でスタートしました。

また、長年議会の舵取りをいたしていた津村前議長が改選を機にご勇退されました。

今までのご功績とご労苦に対し厚く感謝申し上げます。

議長としての重責を全うして行く覚悟でございますのでよろしくお願ひ申し上げます。

町民の皆様からは議長になって以来、新しい議会に対する期待の声を多く聞かせていただいております。引き続き締まる思いでございます。

日本創生会議から人口減少により

地方の多くの町が消滅するとの試算が発表され、大きな話題となりました。

この試算は、机上の一試算に過ぎないという人もありますが、今の少子化の状況から人口減の方向で行くことは間違いないと思われま

す。人口が減少し、高齢化が進むことは、町の衰退につながり、本町にとっても、最重要課題であります。

人口減少に歯止めをかけるためには、道路インフラの整備、働く場の確保、子育て支援、教育環境の充実や住みやすい環境の整備などやるべきことが山積しています。

議会としても、執行部と人口減に歯止めをかける施策の議論を活発にしていこう所存であります。

議会は、町勢の発展と町民の福祉の向上のため皆様の負託に応えるべく、まちづくりに取り組んでいく所存であります。

引き続き皆さまのご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年が皆さまにとりまして良い年となりますことを祈念して、新年のあいさついたします。

## 12月定例会で可決された議案一覧 (全て全会一致)

議案名
いわみ道の駅(仮称)建設工事の請負契約の締結
鳥取市と岩美町との定住自立圏の形成に関する協定の変更
特別職報酬等審議会条例の設定
国民健康保険条例の一部改正
家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の設定
特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の設定
廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正
一般会計補正予算
国民健康保険特別会計補正予算
介護保険特別会計補正予算
病院事業会計補正予算
教育委員会委員の任命

置き特別職の給与などを審議していただきたい。

**いわみ道の駅(仮称)建設工事の請負契約の締結**

工事完成期限

27年6月15日

請負代金額

2億8512万円

請負者

井木組・本庄建設特定建設工事共同企業体

現行の39万円を40万4000円に引き上げる。

**廃棄物の処理及び清掃に関する条例の改正**

し尿収集運搬手数料をこの条例から削除する。

【質疑】

**問** 削除するに至った経過はどうか。

**国民健康保険条例の改正**

出生育児一時金の支給額を、27年1月1日から、

収集運搬手数料は、公

**答** し尿収集運搬の一般廃棄物処理手数料は、公共料金という認識で、町も事業者もこの条例を運用してきた。

### 人事

教育委員会委員の任命に同意しました。

田村 淑子(恩志)  
(敬称略)

公共料金として条例で定めるべきでないとの国の指導もあり、条例を整備し、削除したい。

## 土曜授業を実施せよ

田中伸吾議員

## 来年度の実施に向け 検討している

寺西教育長



田中伸吾議員

**田中** 土曜授業について、教育長は昨年、各方面と協議し判断したいと述べたが、どのような協議、検討をされてきたか。

**教育長** 土曜授業、課外授業、土曜学習の3つがある。

土曜授業の実施を前提に、学校、教育委員会、PTA、各種団体などで意見交換を行い検討を重ねてきた。

各小学校長に対して、27年度の学校行事などの編成にあたり実施の検討を依頼している。

**田中** 具体的な検討内容はどうか。

**教育長** 教員の勤務体制や他の関係団体との行事調整、年間の実施回数など。

**田中** 東部地区の土曜授業の取組状況はどうか。スポーツ活動、文化芸術活動が重なることをどのように考えているか。

**教育長** 鳥取市、若桜町、智頭町が土曜学習を実施している。

土曜授業については、本町以外実施する検討はされていない。県の教育委員会もスポーツ関係団体などに対して調整を働きかけている。県とも協力していく。

**田中** 土曜授業を行う場合の課題はあるか。

**教育長** 土曜授業を実施

している倉吉市と4町では、諸活動の調整と教員の勤務のことが最大の課題だ。



真剣に授業に取り組む児童（岩美南小学校）

## 一人一台のタブレット活用 を考えているか

田中伸吾議員

## グループ活用が一番有効

寺西教育長

**田中** 全国的にタブレット端末を生かした授業の取り組みが行われているが、岩美中学校でのタブレット端末の活用状況はどうか。

**教育長** 現在、6年生を中心に理科の授業で活用している。

**教育長** 中学校に本年度導入し、バトンリレーなどの動きを録画し、体育の授業に生かしている。

**田中** ICT（情報や通信に関する技術の総称）の活用教育では、支援員の配置が必要と思うがどうか。

他に英語のリスニング、理科の実験、技術家庭科、文化祭の合唱練習などで活用している。

**教育長** 県の教育委員会は、ICT活用教育推進ビジョンを、今年度中に作成する。

**田中** 今後、一人一台の活用は考えているか。

ICT教育を支える人材の確保は大きな課題だ。

**教育長** 今はグループにおいての活用が一番有効と考えている。

**田中** 小学校での活用は考えているか。

## 除雪対策は十分か

宮本純一議員

## 災害を念頭に計画を立てている

榎本町長



宮本純一議員

宮本 員は26名である。町内にはオペレーターが不足している。

榎本 除雪の技術の向上に向けて、講習会に取り組みべきではないか。

町長 除雪の技術向上に、しっかりと取り組む。

宮本 近年、業者保有の大型除雪機が減少している。

町長 町が機械を保有し、運転を業者委託する方法も検討してはどうか。

町長 将来、行政が保有するとすれば、リースでの対応が望ましい。

町長 計画について協議し、除雪を行っている。

宮本 消防車両、緊急車両の交通路の確保など、災害に備えた除雪対策は検討しているか。

宮本 除雪体制は十分か。

町長 除雪に当たる町職

## 積雪時の高齢者、障がい者への支援策はどうか

宮本純一議員

## 地域の支え合いに取り組みたい

榎本町長

宮本 現在の除雪の状況が分かるような地区別放送、除雪の協力の放送ができないか。

町長 リアルタイムでの地区別放送は困難である。

宮本 大雪のときの高齢者世帯、障がい者世帯への支援策はどうか。

町長 要援護者を地域で支え合う仕組みとして、要援護者台帳の整備を進めている。

また、高齢者世帯の屋根の雪おろし費用助成制度を設けている。

宮本 自分でできない方もいると思うが、費用助成制度の利用は、どのような方法で、誰に頼むのか。

町長 本人が隣近所の方が、役場へ連絡いただければ、業者につなぐ仕組みを周知していきたい。



歩道の除雪作業（長郷）

## 子どもの貧困対策法を受けて 行政の責任とは

田中克美議員

## さまざまな施策を構築して いく責任がある

榎本町長



田中克美議員

**田中** 昨年の国会で、全会一致で成立した、子どもの貧困対策法を受けて、\*大綱を閣議決定したが、この大綱について感想を聞く。

**町長** 大綱がうたっている文言については、共感する。

**田中** 子どもは、さまざまな能力と、可能性をひめており、生まれた場所などにかかわらず、能力と可能性を、伸ばすことのできる環境と機会均等を図るのが、その趣旨だと思いがどうか。

**町長** 国を挙げて、地方自治体も、その方向をめぐす必要があると思う。

**田中** 大綱の中で、子どもたちは、国の一番の宝だと言っているが、国の宝として、立派に成長させる責任が、親にあるのか、国の宝として、社会の責任で育てるのか、二つの方向があると思うがどうか。

**町長** 社会が育てるのは正しいと思うが、社会の基本は家庭であり、地域の基本も家庭であるという考えを持っている。

**田中** この貧困対策法の趣旨を生かせば、子育てを、社会の責任として、取り組むことが必要では

ないかと思うがどうか。

**町長** 全ての子どもたちが、夢と希望を持って、成長していける社会の実現という考え方は、基本

に置き、行政に責任はあるという立場でいる。

人口減少対策を押し進めるためにも、さまざまな施策を、考えてみたいと思う。



岩美南小学校区の防災訓練

\*子どもの貧困対策法に関する大綱

日本の将来を担う子どもたちは、国の一番の宝である。貧困は、子どもたちの生活や成長に、さまざまな影響を及ぼすが、その責任は子どもたちにはない。子どもの将来が、その生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と、教育の機会均等を図る、子どもの貧困対策は、極めて重要である。

## 災害時の通信手段の複数化を

田中克美議員

## 業者に働きかけてみたい

榎本町長

**田中** 災害発生の際、情報収集、相互の連絡が初動から不可欠である。通信規制がかかりにくいPHS電話を、公共の施設に配備してはどうか。

**町長** 全町的に配備という前提で考えてきたが、事業者がエリアの拡大を、考えていない。

電波が届く範囲内であれば、改めてPHSについては考えてみたい。

**田中** エリア内ということだが、基地局の増設は経費的には安いと思う。

町がPHSを導入し、活用する方向で、事業者に基地局の増設を働きかけてほしい。

**町長** 改めて働きかけるが、電波の到達エリアが非常に短いという特性がある。

# 浦富インターチェンジ周辺整備はどうなっているか

杉村 宏議員

# 拡幅のための用地交渉が難航している

榎本町長



杉村 宏議員

いて、県との協議状況はどうか。

**杉村** 東浜・岩美・大谷インターチェンジ周辺の交通事故の発生状況は、供用開始前後を比べてどうか。

**町長** 東浜インターチェンジは、供用開始前1年間に事故が7件、開始後6年間で1件発生。

岩美インターチェンジは、19件が3件。

大谷インターチェンジは、36件が1件となり、事故防止対策にも大きく貢献している。

**杉村** 県道網代港岩美停車場線改良の見込みにつ

**町長** 供用開始に合わせて県道側も整備される。

インターチェンジから海岸方向（北側）に向かう東側の拡幅部分は、用地交渉に難航している。

この部分は、供用開始より遅れて道路の整備がされる事態が想定される。

**杉村** 南側の改良実施については、開通までに間

に合うか。

**町長** サンマートまでは27年度完成をめざして鋭意努力すると返答をもらっている。

サンマートから役場までの間は27年度が調査設計の予算が要求されている。

**杉村** 町道前田線は、道

路新設及び拡幅改良工事が実施されている。

改良工事において歩道、冠水対策についての考えを伺う。

**町長** 歩道は、両側に設置するのは困難。片側で全線を通す考えである。

前田川の県道横断部分が狭くなっており、大清水団地周辺の道路冠水などを頻繁に起こしている。

排水対策として、県道の水路のボックスの新しい大きなものを入れる計画を進めてもらっている。

## 中央公民館は案の前に声を聞け

杉村 宏議員

## 白紙の状態で声を聴くのは 適当でない

榎本町長

**杉村** 5年後をめどとする中央公民館の建てかえに、当局が計画案の策定前に、町民の皆様に見聞や夢を述べて頂く機会を設けてはどうか。

いし、存在や必要価値がない。情報公開や意見を伺う機会は、必ず持つ。

### その他質問事項

**町長** 全て白紙の状態です。町民の皆様にご意見を伺うのは適当ではないと考えます。

- ・岩美町の中心市街地形成について
- ・網代漁港施設用地等利用計画について
- ・職員の勤務時間について

基本的な規模・建設場所などを含め、一定の考え方を持たなければ、行政として責任が果たせな



工事が進む浦富インターチェンジ付近

地域包括ケアシステムの  
取り組み状況は 芝岡みどり議員

関連の状況や状態の  
調査をしたい 榎本町長



芝岡みどり議員

**芝岡** 6月に成立した医療・介護総合確保法では通所介護と訪問介護を地域支援事業に移行したが、「要支援切り」との批判がある。

本町の取り組みはどうか。

**町長** 移行後は、介護予防と日常生活総合支援事業となる新たなサービスを提供する。

準備期間として29年3月31日まで、従来の訪問介護、通所介護を行うことが出来る。

2年間を準備期間と捉えて、システムに取り組む。

**芝岡** 近年、高齢者のみの世帯、高齢者のひとり暮らしの世帯の増加傾向が指摘されているが、今

後の推計はどうか。

**町長** 現在、65才以上の全休人数は3863人、ピークは32年で4013

人となる。

その後、微減を繰り返して52年には3275人と見込まれている。

団塊の世代が中心の年

齢構成になっていくことが顕著だ。

**芝岡** 高齢者がどのような医療、介護を必要とし

ているか、把握することが重要と考える。

また、実態調査、ニーズ調査をして、地域包括ケアシステムの構築に取り組むべきと思う。

**町長** 高齢者の心身状態の把握、社会参加などの状況、介護予防が必要となる状態、福祉施策に対する意見などの調査を行った。

結果を、介護予防教室の参加勧奨や、新しい介護予防、日常生活総合支援事業の検討に活用したい。

**芝岡** 「地域ケア会議」は、地域包括ケアシステムの実現に向けた、重要な手法だ。会議のためのガイドラインの策定はどうか。

**町長** これまでの取り組みや、既存の会議の充実で対応したいと考えている。

今後も情報を取りながら対応したい。



すこやかセンターで介護予防教室



# 町が米価維持を考えてはどうか

日出嶋香代子議員

## 金額が膨大で補てんできない

榎本町長



日出嶋香代子議員

**日出嶋** 米価下落のもとで、農家が米づくりを続けるためどうすればいいか、町長の見解を伺う。

**町長** 米価対策だけではなく、根本的には、農業施策全般でやらなければいけない。

国は、大規模農家と集落営農でやることを維持しようという段階に入ってしまった。

そういう状況にあるもとで、耕作放棄地、鳥獣被害、燃油高騰などさまざまな問題が米農家にかかってきている。

それぞれの問題に行政

ができる対応を、関係者と相談しながらとることが肝要だと思っている。兼業農家でも米を作り続けることができる方を、町単独でも、関係者と相談できればと思っている。

**日出嶋**

適正な米価を維持

持するための対策を、町としてどのように考えているか。

補てんはできない。

町がとれる対策としては、村単位での振興策、生産を継続するための水路、農道などへの助成、農機具の共同利用の仕組みへの支援などにならざるをえないと思う。

**町長** 昨年比2800円(60キログラム)の価格下落分及び所得保障の削減分7500円を補てんするには莫大な金額になる。



岩美南小学校児童による稲刈り体験

### 第6回臨時会

11月28日開催

(全て全会一致で可決)

一般会計補正予算の専決処分の承認

衆議院選挙に係る経費の増額。

職員の給与に関する条例の改正

国の人事院勧告に準じて、職員の給与を改正。

一般会計補正予算

職員の給与の改正に伴う増額。

国民健康保険特別会計補正予算

職員の給与の改正に伴う増額。

### 請願・陳情審査結果

件名	結果	賛否の状況	不採択理由
軽度外傷性脳損傷の周知、及び労災認定基準の改正などを求める陳情 大阪府東大阪市六万寺町3-12-33 軽度外傷性脳損傷仲間の会 代表 藤本久美子	趣旨採択	全会一致	
網代旧港浜公園遊具施設の設備更新についての請願 岩美町大字網代81 網代地区自治会長 清水 博 紹介議員 柳正敏議員	採 択	全会一致	
「合特法」に基づく「代替業務」の陳情について 岩美町大字高山62番地1 協同組合 岩美町環境事業公社理事長 田中清一ほか2名	不採択	全会一致	一の陳情者は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の規定により、平成23年4月から平成28年3月までの5年間、一般廃棄物収集運搬業の許可を取り消され、現在取り消し期間中にある者であり、他の陳情者は、一般廃棄物収集運搬業の許可を受けていない者であり、「合特法」が規定する業者に該当しない
「合理化事業計画」の策定についての陳情書 岩美町大字高山62番地1 協同組合 岩美町環境事業公社理事長 田中清一ほか2名	不採択	全会一致	陳情者は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の規定により、平成23年4月から平成28年3月までの5年間、一般廃棄物収集運搬業の許可を取り消され、現在取り消し期間中にある者であり、「合特法」が規定する業者に該当しない

# 常任委員会行政調査

## 総務教育常任委員会

### 空き家・空き店舗による 地域活性化調査

調査日

26年10月29日

調査先

佐賀県江北町

#### 目的

町内に空き家が414軒点在し、情報を求めるニーズはあるが、情報の提供や登録は進んでいない。景観を損ねたり、危険家屋も見られ、活用、処分が課題となっている。

#### 調査の概要

炭鉱が所在していた上小田地区の空き家・空き店舗を活用した地域活性化

空き家・空き店舗を利用した取組

「お茶のみサロン」（空き家再生→高齢者支援）  
「上小田児童クラブ」

（空き家再生→子育て支援）

「おへそのおへそ」（空き店舗再生→地域活性化）

「空き家再生塾」（空き家再生→地域活性化）

地域活性化の取り組みを  
実践する人材の育成

地域おこし協力隊制度  
の活用→2人の地域おこし  
協力隊員が地域で実践。

まちづくり座談会の開催  
（月1回）→空き家や  
空き店舗を活用した上小  
田地区の活性化につながる  
ソフト事業を企画・実践  
していくために月に1回  
座談会を開催。

地元学生（高校生）の  
参画 → 高校生による  
キーキカフェ（月1回程度）  
を開設。



江北町

「空き家バンク」の整備及び危険な空き家の撤去  
空き家等情報制度（空き家バンク）を整備した  
空き家等適正管理に関する  
条例を制定し、危険家  
屋の撤去の促進を行っている。

#### まとめ

この町の立地は、佐賀  
県の中央付近であり、宿  
場町であった歴史と現在  
もJRの分岐駅があるこ  
とから、交通の要衝であ  
る。また、昭和初期に炭  
鉱が開坑し賑わいを見せ  
た。このことは、岩美町  
の姿に重ねてみることで  
できる。

炭鉱が所在していた上  
小田地区の人口は閉山後  
半減しているが、町全  
体の人口は近年安定し  
9500人程度でこの20  
年間推移している。

これは、バイパス付近  
などの、交通便利性が高  
く、商業施設も進出する  
地区に新興住宅地を立地  
させ、居住環境が優れて  
いることと、元々、JR  
などの交通の要衝で利便  
性が高いことが、居住希  
望者に受け入れられたも

のと推測する。また、人  
口減少地区においても空  
き店舗活用により、地域  
活性化を図っている。  
本町においても、交通の  
利便性、居住環境を考慮  
して定住化対策を進める  
必要がある。

空き家活用については、  
江北町が、上小田地区の  
将来について、住民とと  
もに課題を共有し、町内  
外の多様な人材とともに  
考えて実践していること  
により地域の活性化につ  
ながっている。本町におい  
ても、各地区において、  
空き家を資源として、地  
域住民、その他の人材を  
取り込み一緒になって考  
えていくことが重要であ  
る。その中には今進めて  
いる地域おこし協力隊の  
空き民宿の活用のように、  
協力隊の活用も進めるべ  
きである。

# 常任委員会行政調査

## 産業体験型観光による まちづくり調査

調査日 26年10月30日  
調査先 長崎県波佐見町

### 目的

焼物と自然の町で、来  
なっせ100万人”を唱  
え、体験型のイベントを  
切れ目なく実施し、産業  
体験型観光によるまちづ  
くりで成果を上げてい  
る。

この成功に至るまでの  
経緯を調査し、本町の観  
光振興の参考とする。

### 調査の概要

#### 産業体験型観光によるま ちづくり

#### 産業体験型観光に取り組 んだ経緯

地場産業の窯業が疲  
弊し、3年の出荷額が  
176億円から24年には  
42億円に減少した。窯元  
に直接消費者の意見を聞  
く意識が芽生え、一般消  
費者向けに「桜陶祭」を  
開催したのがきっかけと  
なった。やきものと農業  
だけではなく、体験型

をプログラム化して行っ  
た。

#### 産業観光型観光の取り組 み状況

波佐見陶器まつり・約  
130社の窯元と商社が  
開催し、期間中毎年約  
28万人の出入。

桜陶祭・各窯元の工場  
を展示場として開放し、  
お客様と直接交流を持  
つ。

約2万人の出入。

鬼木棚田まつり・案山  
子が立ち、約1ヶ月の間、  
多くの観光客の目を楽し  
ませている。素材として  
いなかったものを、活用  
し、お客さんに喜ばれ、  
迎える方も喜び、錯覚す  
る。錯覚が良い、地元  
の元気が出る。2万5千人  
の出入。

JRウォーキング・鬼  
木棚田まつり期間中に実  
施し、約2万人。

来なっせ100万  
人”・窯元や棚田、温泉、



波佐見町

史跡等、地元資源を活用  
し、「来なっせ100万  
人」というスローガンを  
唱え観光に力を入れるよ  
うにした。

陶農体験メニューの開  
発・波佐見来なっせ体  
験塾”というやきものと  
農業を組み合わせた体験  
メニューを開発し、とき  
れることのないイベント  
を実施し、観光客の受け  
入れを行ってきた。

やきもの体験：「ロクロ・  
絵付け体験」、ストラッ  
ぷづくり体験  
農業体験：「梅漬け体験」  
「椎茸づくり体験」「石窯  
ピザづくり体験」  
陶農体験：「ザ！酒塾」  
「ザ！そば塾」「みそづく  
り塾」

### まとめ

主要産業で400年の  
歴史のある窯業が疲弊  
し、出荷額が大幅に減少  
した。製品の魅力を高め  
るため、消費者の声を生  
産者が直接聞き支持を得  
ることができた。観光で  
成り立つことまでには至  
らなくとも、地域の活性  
化にはつながっており、  
人口も微減で収まってい

る。

「来なっせ100万人」  
をスローガンに、「ザ！  
酒塾」などの陶農体験を  
進め、80万人まで拡大す  
ることができている。年  
に数回訪れ、各魅力  
を連携した体験の商品化・  
パッケージ化は非常に参  
考となる。

アニメ「Free!」  
効果により、多くの若者  
が岩美町を訪れている。  
若者たちは、岩美町の魅  
力を満喫しリピータと  
なって「また来たい」と  
言っている。地域の元氣  
につなげるチャンスであ  
り、農業、漁業、観光、  
温泉、などを組み合わせ  
る仕掛け人が欠かせな  
い。

# 常任委員会行政調査

## 産業福祉常任委員会

### 健康対策・健康づくりと道の駅の先進地事例調査

調査日 26年10月28日～30日

#### 目的

高齢化が進展する中で、元気な高齢者ができるだけ現状の身体機能を維持し、加齢による虚弱化の進行や生活機能の低下を防ぎ、社会貢献層として活躍することが重要となる。

また、若者や働く世代に対しては、適切な食生活、運動習慣、禁煙などの生活習慣の定着を図るとともに、自分自身で健康管理ができる能力を身に付けることも必要だ。生活習慣等の改善を通じて、子どもから高齢者まで共に支え合いながら、希望や生きがいを持ち、健やかで心豊かに生活できる活力あるまちづくりを実現するため、健康対策・健康づくりについて調査・研究を深めること

興や地域おこしの拠点施設として定着するよう、昨年に引き続き道の駅の視察も行った。

#### 日本一の健康長寿村事業

愛知県飛島村

#### 調査日

26年10月28日

#### 調査の概要

◎健康長寿村構想の経緯  
飛島村日本一健康長寿



飛島村



袋井市

#### 健康マイレージ制度

静岡県袋井市

#### 調査日

26年10月29日

#### 調査の概要

5年11月に「日本一健康文化都市宣言」を行い、22年、合併5周年を機に新たに「日本一健康文化都市宣言」を制定した。より健康的な生活習慣の定着をめざした市民運動として「健康チャレンジ!! すまいる運動」を展開している。

村研究会を発足し、「日本一の健康長寿村づくり」をスローガンに掲げ、開始

#### ◎健康長寿村構想の目的

村民誰もが、健康で安らかな長寿を楽しみ、皆で支え合う豊かな村づくり

#### ◎飛島村日本一健康長寿村研究会の活動

日本一健康長寿村研究会を中心に、職員と住民と協働でさまざまな実態

調査やニーズ調査を実施

#### ◎飛島村日本一健康長寿村研究会の成果

8年に複合施設「すこやかセンター」を開館。

#### ◎健康長寿村研究事業の経緯

「健康とびしま21」「介護保険計画」「高齢者保護福祉計画」を策定。

地域における健康づくり活動の推進と、市の実施する健康づくり事業の効果的な推進を図るため、各自治会に男女1名ずつ

# 常任委員会行政調査

の「健康づくり推進員」を委嘱。

道の駅整備  
静岡県掛川市（道の駅掛川）

調査日  
26年10月30日

## 調査の概要

道の駅掛川は17年の春にオープンし、開業10年目となる。食の安全・安心・旨味等の追及を基本として、お客様に満足していただける店をめざし、工夫や改善を重ねている。

出荷者と経営理念を共有するため出荷者総会を開催するとともに、定期的な栽培研修会を開催するなど、さまざまな取り組みをしている。

野菜類の販売手数料を10パーセントに抑え、農家所得を優先するとともに、出荷と販売を直結する販売情報システムにより適量出荷や残品発生防止を図り、生産性を高めるべく取り組んでいる。

「このものがある」「わざわざ買いに行く価値がある」と言われる品揃え



道の駅掛川

を心がけるとともに消費者との対話を通じた信頼関係の構築、マスコミを介した情報提供などにより、広域にわたる顧客の確保に努めている。

## 岩美町として学ぶ点や検討すべき事がら等

健診結果による保健指導だけでなく、疾病を未然に防ぐ「一次予防」に重点を置き、村民に健康に対する意識を持つてもらうための飛島村の次の取り組みから学び、本町もいっそう努力する必要があると考える。

飛島村の取り組みは、短兵急に結果を求めるのではなく数年をかけた調査と研究など、取り組みが継続して行なわれており、また様々な調査を職員と住民の協働で実施している。取り組みの継続性、系統性と住民参加はしっかり学びたい点である。

飛島村と同様に袋井市も運動指導士を正職員として採用し、集会所などに出向いて運動指導を行なう「出前健康教室」を

開催している。健康づくりにおける運動指導と運動指導士の役割について研究することを提案したい。

道の駅掛川については、「楽しく仕事をしてお客様を笑顔にしよう」を社訓とし接客も自分で考える社員づくり、素早いクレーム対応でクレームのお客様さんも固定客にする、商品としてほしい野菜は苗を安く提供して確保する等々、一度来たお客様は固定客にする意気込みで発想豊かに社長以下一丸となって取り組んでいるところを、本町でもしっかり学ぶ必要があると思う。

我々町議会はもとより、町をはじめとする道の駅に関わる団体のリーダーたる人たちの、リーダーシップの発揮に期待したい。

# 成人式の実行委員のみなさんに聞きました



澤 世玲奈さん

私の将来の夢はこの岩美町で看護師として働くことです。以前からこの町のために働きたいと思っていましたが、どのような形でという明確なものはありませんでした。

昨年、深くこの町のことや人々を知る機会があり、町の魅力を感じることができました。その経験により、看護師になるという目標を見つけることができました。成人を迎えましたがまだまだ未熟なので学校や地域での様々な学びを通して岩美町に貢献できるような人に成長したいと思っています。



土師 正敬さん

私は中学生の頃、あまり前に出るような性格ではなく、誰かを頼ってばかりでした。

したが、大人への仲間入りをするにあたり、いつまでも人の陰に隠れてばかりはいられないと思い、実行委員会に入りました。また、このようなチャンスがあるなら、そのチームを引っ張ってほしいと思いい、委員長になりました。当日は予想以上の盛り上がりで、会場でのみんなの笑顔を見て、本当に実行委員会に入って良かったと思いました。今回の経験を糧とし、社会に貢献できる人間になっていきたいと思ひます。



北村香菜子さん

私は家族・先生・地域の方々に支えられ、成人式という日を迎えることが出来たと思います。今年の4月で社会人3年目になります。成人式の実行委員もですが人前に立つ機会を多く与えていただきました。この経験は自分の成長に繋がっていると思います。成人としてまた、社会人として今まで以上に責任と自覚を持ち、感謝・挑戦・学ぶ気持ちを忘れずに行動をしていきたいです。

私が思う岩美町の素晴らしいところは、沢山の自然があるということももちろんですが、人と人とのつながりです。近所の方にも、そうでない方にも、挨拶をし合える環境がこの町にはあります。また、私が朝学校に行く時、近所の方に会うと必ず『行ってらっしゃい』と言われ、夕方帰ってきてから会うと、必ず『おかえりなさい』と言われます。このように家族のように当たり前に挨拶を交わし合えるというのは、とても素晴らしいことだと思います。私は将来、そんな素晴らしい故郷のために貢献できるような人になりたいと思います。



大西 彩加さん



山田 祐輝さん

僕はこの1年、自分が成長するのにとっても大事な時期だと思っています。20歳というひとつの区切りが来たのと、仕事面でも3年目になるので自分に任せられる責任も増えてきます。もう、子どもではないということとを頭で常に考えひとつひとつの行動に責任と自覚を持ち過こしていいと思っています。

今まで僕に関わってくれた家族をはじめ、地域の方々、学校の先生方などへの感謝の気持ちも忘れずこれから今年1年頑張りたいと思っています。

## 編集後記

師走の雪と寒さに驚きましたが、本町は大事に至らず、新年を迎えました。年明けの行事に追われているうちに、言葉のとおり1月は「往々」気配です。12月議会だよりは、委員全員が原稿を受け持ち、正月を返上して書くことから始まりました。全国議長の広報研修会に参加した新委員も、成果をさっそく生かしています。皆様のご意見をぜひお寄せ下さい。(克)

## 議会だより調査特別委員会委員

議長	船木 祥一
副議長	柳 正敏
委員長	田中 克美
副委員長	芝岡みどり
委員	日出嶋香代子
委員	田中 伸吾
委員	川口 耕司
委員	宮本 純一
委員	杉村 智章
委員	寺垣 智章